

# ケアポート板橋 特養2階

症 例 概 要    ご利用者:90代    要介護度4

認知症、廃用症候群、パーキンソン症候群、心房細動、左視床出血

ケアポート板橋 特養2階 (入所 H30年11月～ R.4年2月)

ケアポート板橋に入所後、奥様も同じフロアへ入所が決まり、夫婦での生活が再開。普段喧嘩をされる事も多々ありましたが、食堂に旦那様がいないと心配をされる等、夫婦の絆は強くありました。R3.11月頃から容態が悪くなり、お看取りの方向で支援を開始。新型コロナウイルスクラスター下、ご夫婦共にコロナ陽性となってしまいましたが、その中でも好きな物を食べたい意向、夫婦の時間を大切にする事、息子様のご面会等、ご家族・ご夫婦のあるべき姿でお看取りができた事例。

## 内 容

利用者さんは職人気質。舟渡デイを利用し、在宅生活を続けておりましたが病態が悪化し、H30年11月に入所。奥様は、舟渡町会婦人部として、ケアポート板橋のボランティアに積極的に参加して下さっていましたが、認知症を発症。令和2年1月に奥様の同フロア入所が決まり、ご夫婦での生活が再開しました。初めは同じテーブルで過ごして頂いておりましたが、口喧嘩が絶えません。適度な距離をおきながらの生活となりましたが、さりげなく近くを通る時に話すきっかけを作ったり、行事等で一緒に写真を撮るなどの対応を行い、適度な距離感で過ごす事ができるようになっていきました。

令和3年の11月頃より容体が悪化し、全身状態が低下。ベッド上での生活が多くなり、ご家族とのカンファレンスの結果、お看取りの方向で支援が決定します。看護と連携し、体調が良い時は食堂へ短時間でも離床して頂くことや、奥様をお部屋へ案内し2人の時間を作ることに、往診歯科及び管理栄養士と連携し、「ウナギが食べたい。」「寿司の中トロが食べたい」など、ご希望されるお好きな物は長男様が購入し、ご持参頂きました。食事が進まない時に提供し、少しでもご本人の希望を叶える為に安全に提供することをチームで考え実践していきました。提供を開始してから「ウナギか」と反応が良くなったり、「うまい」と食べて頂く頻度が増えていきました。

夫婦の時間を大切にする為に、離床できない際はお部屋に奥様をお連れしました。お部屋で職員が水分介助や食事介助をしているところをご覧になり、「いつもお世話になって申し訳ないね」と仰られる事もあれば、奥様と一緒に職員見守りの下、ご本人へ介助を行い、奥様をみて「かーちゃんか」と笑顔が浮かべておりました。

コロナ禍においても、ご家族との時間を作るべく、ご家族とのご面会を感染症対策を実施しながら対

応。お孫さんとの時間、長男様をみて「〇〇か」と名前を呼ばれる等、時間を気にせず家族の時間を作る事も出来ました。また、本氏の経過を記録や写真、動画に残しフロア職員で共有を行い、長男様へ介護職員、看護師より経過報告や動画をご覧になっていただきました。

令和4年2月にケアポート板橋で新型コロナウイルスのクラスターが発生してしまい、夫婦共にコロナに罹患。奥様は石川島記念病院へ入院となりました。奥様が退院されるまで、何とか頑張りたいと、必死に対応して参りましたが、容態は悪化。奥様の退院日に息を引き取られました。コロナ罹患者においては、親族でもお見送りができない状況でしたが、葬儀屋と話し合い、ご親族と一瞬でもお逢いできる様に別室にてお顔を見て頂くことができました。「本当にお世話になりました。ありがとうございます。」とお言葉を頂いております。そして旦那様の葬儀に奥様も参列して頂くことができました。

今回の事例で夫婦の絆の深さを感じ、クラスター禍においてもその人らしい最期を迎える事が出来、夫婦のあるべき姿がケアを通じて実現できたと考えます。フロア職員のお看取りへの再認識とケアの大切さを学び、今後もその人らしく過ごしていただける様にチームケアの充実を図っていきます。

今回の取り組みはキラキラ介護賞に相応すると思ひ、推薦させていただきます。